



「初心忘るべからず」

校長 片岡 英史

初心忘るべからず（しょしんわするべからず）（出典：世阿弥『花鏡』）という言葉があります。何事においても、始めた頃の素直に相手の意見などを受け入れる態度で真剣な気持ちを持ち続けていかなければならないという言葉です。

みなさんは、本校には「高岡高等支援学校で〇〇を身につけて働きたい」、「就職して、自立したい」など将来の夢や考えを持って入学してきたと思います。そして、緊張しながら色々なことにチャレンジしてきました。学校生活に慣れた今の自分はどのような感じでしょうか。

環境に慣れてくると、自分のペースで物事に取り組んだり、自分の考えを他人に伝えたりすることなど、あまりストレスを感じずに物事に取り組むことができます。一方で、徐々に与えられる課題が難しくなってきたり、友達が増えれば人間関係が複雑になってきたりして、悩みや不安、苦しいことに直面することも出てきます。そのような時、一度立ち止まり、心をリセットして、初心を思い出してみてください。初心には、物事を始めたときの大切な気持ちと大きなエネルギーが込められているはずです。

1、2年生は進級し、3年生は学校から離れ、新たな世界へ踏み出します。本校に入学した頃の気持ちを、卒業する3年生は新たなステージに踏み出す今の気持ちを大事にしてください。

戒めというより、大きな壁に直面した時に再び前に歩き出すための心の支えとするため、初心を大切にしてください。

1学年 職場見学

11月9日（木）に、職場見学を行いました。

1組はマクドナルド8号線高岡店とヤマト運輸富山主管支店を、2組は富山村田製作所と朝日印刷をそれぞれ見学しました。

見学先では、担当の方に仕事のやりがいや働く上で大切なことを質問し、細かくメモを取っていました。また、本校の卒業生が働いている会社では実際にその卒業生から話を聞くことができました。

帰校後はクラスごとに報告をスライドにまとめ、自分たちの見学先を報告し合いました。どんな仕事があるのかを知る、有意義な行事にな



全国障害者スポーツ大会

10月28日（土）～10月30日（月）特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」が鹿児島市で行われ、3年の亀谷さんが富山県代表選手として陸上競技に出場しました。

走り幅跳び（4位）、100m（6位）と自己記録を更新し、富山県チームの1走として参加したリレー（5位）でも全力で競技する様子が見られました。

部活動や強化練習会の成果が発揮されたことと県内外の選手と交流できたことは、良い経験になったと思います。



受賞者報告

令和5年度日本漢字能力検定（1月） 7級合格 山田賢弥（1年） 8級合格 井上優哉（2年）	室井滋のしげちゃん☆おはなしラジオ 図画・作文 コンクール2023 FMとやま賞 宮村柚希（2年） 米島航希（2年） 幸地 奏（2年） 平野紅龍（1年）
令和5年度生徒図書委員表彰 安念翔太（3年）	佳作 森 光輝（2年） 田原 智（2年） 田名田遥樹（2年）
令和5年度高体連表彰 亀谷 涼（3年） 安念翔太（3年）	令和5年度全国特別支援学校文化祭写真部門 りそなグループ賞 石崎希望（3年）

令和6年度当初の行事予定 4月8日（月）始業式、入学式、午後放課
5月2日（木）学習参観、PTA総会、学年懇談会、携帯電話安全教室（保護者向け）

1年間を振り返って（学校総合評価）

保護者の皆様、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今年度の重点課題（アクションプラン）への取組を含め、全12項目で「かなり思う」「やや思う」が90%以上であり、本校の教育活動について概ね満足いただいていると捉えております。また、いただいたご意見について検討し、改善できるところについては対応してまいります。

今年度のアクションプランへの取組状況と評価は次の通りです。

項目	取組状況	委員の意見	評価
【学習活動】 卒業後の社会的・ 職業的自立に向け た授業（作業学習） の充実	（担当以外の作業班の見学） ・1学年、2・3学年それぞれ4班を展開しているが、学年を問わず担当以外の作業班の見学であれば、ほとんどの教員が見学を行い、感想や授業改善につながる意見をアンケートに記入することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の検討も必要だが、企業向け見学会等で、企業の方などの違った視点から意見をいただくことも良い。 ・作業学習で行う支援が、卒業後の就労にどのように結びつくかを考えながら指導する必要がある。 ・授業を見学できなかった教員への対処法を考えていく必要がある。 	B
	（アンケートを基にした授業改善） ・アンケートで集まった意見について、良い支援、改善できる支援などをそれぞれの班で検討し、改善に活かすことができた。他の班の見学で得た取組を自分の班で生かす様子も見られた。		A
【学校生活】 防犯教育の推進と 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・県の学校安全アドバイザー派遣事業を活用し、防犯アドバイザーや警察署の助言・指導を受け、危機管理マニュアル、不審者対応、防犯対策についてシステムの見直し・具体化ができた。 ・教職員及び生徒を対象に、不審者対応訓練及び防犯教室を実施し有事の際の行動の仕方や防犯用具の扱いについて理解を深めた。 ・不審者対応について生徒会執行部がGoogleスライドを作成し、生徒集会で啓発した。 ・事前のアンケートで防犯に対する意識や知識を計り、課題を明確にして防犯教室や訓練を実施、事後のアンケートで意識、知識の高まりを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識を有した関係機関との連携は、生徒、教職員ともに効果的であった。 ・不審者対応訓練や防犯教室を継続的・定期的に行い、引き続き防犯意識を高めていく必要がある。 	A

※ 詳細については、学校HPをご覧ください。